



認定特定非営利活動法人

ぶどうのいえだより



編集・発行人:堀内 昭 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-3-12
TEL 03-3818-3362 FAX 03-3818-3392

No.60 2011年 秋

2001年まで理事をなさり、その後は火曜日ボランティアとして尽力された多田威夫氏が逝去されて一年が過ぎました。振り返ると、大きな位置を占めておられたことをあらためて感じます。

1995年の11月の開設を前にして、当時の「聖テモテ愛の家の拡大運営委員会」が7月22日に開かれました。その時から関わって来られました。翌年に後援会が発足。後援会副会長を引き受けて活躍されました。また、助成金の取得にも尽力されました。福祉関係にお顔が広く、率先して对外宣伝を担当。現在もぶどうのいえだより発送に使われている「医療・マスコミ関係者リスト」は氏の作成によるものです。

後援会会員を増やすその活動の中で、10周年記念誌に綴られているように「任意団体では対外的にも一般に施設を認知してもらいにくいし、寄付を多くの方々をお願いするにしても『法人格』がない施設では、将来の施設の発展は難しいのではないかと強く主張され、いろいろ考えて模索されました。まだ社会福祉法人などしかなく、それには少なくとも2億円の資産がないと認められないとのことでした。

ようやく法律の改正から、特定非営利活動法人(NPO法人)という法人格が認可されるよ

うになったのは、1998年(平成10年)でした。申請手続きには、多田氏と当時の事務局長南良夫氏が努力され、何回も都庁に足を運ぶなどの苦勞を重ねた結果、ぶどうのいえに2000年(平成12年)晴れて認可が下りました。

しかし、この法人は、社会的立場は確立されましたが、税法上の優遇措置は様々な経緯で見送られ、積極的に寄付を呼びかける手段とはなりませんでした。その意味で、2001年(平成13年)から施行された「認定NPO法人」制度は、税の優遇措置を認める画期的なものでした。ただし申請方法は複雑で、認可基準も厳しく、ごくわずかな団体のみという状態が続きました。

やがて、世の中の流れが市民活動擁護になってきて、基準も少しずつ緩和され、ぶどうのいえも認定NPO法人の仲間入りを果たしました。2005年の7月でした。37,8番目の認可であったと記憶しています。ちょうど寄付が右肩下がりになっていたのでラッキーでした。

これを最も喜んで下さったのが多田氏でした。将来の発展という、先を見通す目を持って法人格取得に尽くされた氏の夢が叶ったとも言えるでしょう。

火曜日のボランティア、また法人の運営会員として最後まで運営を担って下さいましたが、今は奥様が運営に参加しておられます。多田氏には、これからも天国でぶどうのいえを見守っていただきたいと願っております。

(ぶどうのいえ理事長)

多田威夫氏と法人格取得まで

堀内 昭

第12回 JHHH ネットワーク会議研修会 「ホスピタリティーとは何か」

今回は、初日、東京ディズニーランドにあるディズニーアカデミーで「ゲストサービス フィロソフィー」という話を伺い、翌日、それをもとにホスピタリティーを考える話し合いでした。テーマパークと滞在施設(ハウス)では対象者が異なりますが、共通する点と異なる点を探すというのも今回の取り組みでした。

エンターテインメントの世界であるディズニーテーマパークの行動基準

安全・礼儀正しさ・ショー・効率

これがハウスとどう結びつくか。受講内容から各自がアンケートに答える形で考えました。

安全：利用者の安全を守るのは、私たちハウスのスタッフやボランティアにとっても最優先すべきことです。安全をもとに安らぎを提供する、という基本はハウスも全く同じです。

礼儀正しさ：相手の立場に立つ、すべてのゲストがVIP。これは議論の分かれるところですが。ハウスの利用者とスタッフは対等の立場であり、上下関係ではないという意見もありました。また、相手の立場を思いやるが、立ち入らない姿勢も必要です。

ショー：毎日が初演。ハウスのスタッフにとって毎日の業務がマンネリになってはいけません。利用者のニーズが変わることも察知できないと困ります。その意味で、この項目も大事です。

効率：チームワークの大切さ。時間の無駄を省くこと。ゲストの満足度を高めるためというパークの目標とは異なりますが、ハウスではスタッフやボランティアの間の連絡や連携がとても重要です。ぶどうのいえでは曜日ごとに受付担当者が替わります。細心の注意でミスや利用者への迷惑を避けなければなりません。

この講座で、パークとハウスの違いを考える中で、ハウスの役割と私たちスタッフの姿勢を見つめ直すことが出来たと思います。

(堀内紀子)

初めての参加

雲ひとつない9月24日。ディズニーランドホテルを目の前にして、これから始まるディズニー・ゲストサービス・フィロソフィーがどのようなものかあれこれ想像しました。

それというのも、この日語られるホスピタリティーを経験した者だからです。今から十数年前、長女の歯列矯正の器具をレストランでゴミと一緒に捨ててしまいました。キャストにその旨を伝えると、担当のキャスト二人がにこやかにいくつものゴミ袋をひざまづいて開けて、小一時間もしたところで見つけ出してくれたのです。その時の彼らの姿は忘れられません。



相手にとってとても大切な物事を素早く認識して実行に移すという様子を初めて見たような気がしました。

ホテルで行われたレクチャーは手際よくとてもいろいろな角度からホスピタリティーについての説明があり、解かり易いものでした。ただひとつ違うことは、私たちの携わる施設は「またいらして下さい」という場ではないということです。「また利用されなくてはならないとき、安心して居心地の良い場です」という気持ちを込める場であるということです。

レクチャーの後のパーク体験はいつもとは違うものになりました。目の行く先は待ち時間の掲示板でもなければパレードでもなかったのです。キャストによって選ばれ表彰されたキャストだけが付けることを許されたピンバッチを付けた方を探したり、こんなにもたくさん車椅子のお客様が訪れていることに驚いたりと・・・。

ファミリーハウス 20 周年のパーティでは、実に多くの方々が同じ志を持って全国で活動されていることを知り圧倒されました。あまりにも多くの方々が居られたのでどうしていいものやらお恥ずかしい話、途方に暮れてしまいました。「リラのいえ」の方々の積極的なお話しは印象深いものでした。

翌 25 日の「ホスピタリティーとは何か」というテーマでのグループディスカッションでは、地方には地方のジレンマ、都会には都会のジレンマがあることも、生の声を聞いて知ることができました。また、医療の発展と共に私達受け入れる側も新たな形を考えるべき時が迫っているとも思いました。

多くの仲間がいて心強いものを感じました。ぶどうのいえに携わり何年が過ぎたでしょうか。辛い立場で、必死に家族を想い、日々を過ごされているご利用者の方々に敬意をもって接しなくてはと改めて認識いたしました。このような機会を与えられたことに感謝いたします。 (樋口扶美子)



9/24 はディズニーランドのホスピタリティーについての研修、その後ディズニーランドで半日ホスピタリティー体験(楽しかった!!)。その後ファミリーハウス 20 周年パーティーではおいしいお食事とともに、何よりも各ハウスの方々と意見交換がこちらこちらで交わされ、翌日 9/25 は午前 10 時より滞在施設におけるホスピタリティーについて全体会、分会、さらにまとめの全体会と有意義な一日となりました。

小さい規模のハウス、大きな規模のハウスそれぞれにたとえホスピタリティーを意識していなくとも JHH ネットワークの各ハウスは結局ホスピタリティーに満ち満ちていることを実感しました。

日常連絡することが少ない各ハウスの方々と意見交換する大切な会議を本当に大切にしたいと思えます。そしてこの会議で得られたことを各ハウスをご利用の方々に少しでも還元できれば嬉しいです。

各ハウスをご利用の方々、迎えるスタッフとも、いつ立場を置き換えられるかも知れません。お互い見守り、尊厳を守りたいと思えます。

スタッフとしていつでもアンテナを張り、情報を得て、ハウスに関することはすぐに答えられるようにしたい。ハウスをほっと出来る場にしたい。そして何より「あなたはひとりではない」と思って頂きたいとの認識を新たにしたい二日間でした。 (荒川こずゑ)

JHHH ネットワーク会議が 2011/9/24～25 の 2 日間開催され、参加しました。9/24 はディズニーランドホテルとディズニーランドでホスピタリティの研修・9/25 は築地の国立がんセンター内にある会議室に場所を移し、ホスピタリティについて真剣に話し合いが行われました。

毎年一回お目にかかる各地域の施設の方々との意見交換は貴重なものだと感じています。各ハウスで“今”にとどまらず少しでも成長するよう、このネットワーク会議がこれからも続きますように願っています。

(荒川温子)



JHHH とは日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウスのことです。

高度医療を受けるため、自宅を離れて病院に来ている子どもとその家族のための滞在施設です。

私は初めて JHHH ネットワーク会議に参加させていただき、今回のテーマである「ハウスのホスピタリティ」について多くのことを学びました。

会議と研修の目的は、全国滞在施設運営者が集まる研修会を実施し、ハウスでのホスピタリティの具体例・工夫策を紹介し合うことで、その理念を明確化・言語化することにあります。

私達は、ホスピタリティの表現は明確ではないけれど、大切だという気持ちは共通しています。ホスピタリティが無ければハウスではないという原点も知っています。

そこで、わかりにくいこの言葉について、いろいろ話し合い検討してみました。

キーワードとしては、安心・安全・安らぎ・清潔・思いやり・さりげなさ・見守りなど。

内容としては、ほっとでき安らげる場所でありくつろげる空間・安全な施設・衛生管理・過剰過ぎず、足りなさ過ぎず、さりげなく etc

大切だと思うことは、相手の立場にたって思いやり、一人一人の必要を察し、一人ではないという安心感をもってもらうこと。そして、介入し過ぎず、理解する思いを忘れないことなどの意見が出てきました。

また 11 月 19 日の検討委員会でも、ホスピタリティとは、「日常性の回復」という言葉に上記のすべての気持ちが含まれているのではないかと意見がありました。日常性を失った病者にとって、日常性の復帰や我が家・家族を取り戻す事が大事です。病院の近くで「我が家」と同じ様に安心して過ごし、治療に専念できるようしていただくために私達の活動があるのだということを再確認いたしました。

全国の独立した滞在施設である運営団体が、みな同じ理念・同じ方向性で、目指すものを共有し、連携していくことは大切なことなのです。そのためにこそこのネットワーク会議が開かれたのです。

ハウスの利用者のニーズに対応できるように、また利用者のことを考えて活動の仲間を増やしていけるように頑張りたいと思います。

(西田恵子)



フェスティバルとバザー ご報告

手作り品大人気！

毎年、多くの方にぶどうのいえを知っていただくために、さまざまな活動をしています。その一つがバザーの開催です。

今年も東京教区フェスティバルと10月16日のバザーに手作り品のお店を出しました。エプロン、刺し子の布巾、枕カバー、小銭入れ、手鞠、クリスマスオーナメント等々。どれもボランティアが心を込めて縫ったものです。

売れるかしらという心配をよそに、飛ぶように売れていきました。実用的な物ですから、使って下さるのでしょうか。ご支援、ありがとうございました。

バザーに向けて沢山の方々から献品を頂き、これ又感謝申し上げます。

東京教区フェスティバル： 9月19日(祝) 立教大学キャンパス
バザー： 10月16日(日) 東京聖テモテ教会と共催



ありがとうございました

会費・ご寄付の方々(順不同 敬称略)

辻善章 辻育美 橋元祐之 浅川海子 草野宣子 櫻井壽彦・美子 匿名 山下浩子 大西健之・六生
小谷佳子 吉岡敏夫 寺井媯 高橋幸子 石渡康弘 片岡大造 匿名 聖オルバン教会 荒牧清美
渡邊誠 堀楚乃子 小杉みどり 大隈廣 アンデレチャーリティーコンサート 満井美子 山口友子
木泰輔 山野上由紀子 公益信託オラクル有志の会ボランティア基金 永野つね 百井幸子 村山
せい子 福地桂之助 吉田栄子 早川和子 竹内尚子 住吉秀一 椎橋俊之 堀洋三 関本寿一 宮
野紀栄子 吉岡敏夫 森田明子・淳史 五十嵐明子 大西健之・六生 匿名 折井利彦 高城栄子 國
吉礼子 横倉正義 織田恵子 宮尾春世 渋谷聖ミカエル教会姉妹会 神品芳明 西田直人・恵子 西
川豊且 糸井史博 森村学園福祉 OG会 渡邊厚子 渡邊誠 今野ひふみ

(2011・7・1～10・31)

ありがとうございました

鈴木洋二様	食品	大平洋志様	バスタオル他
大庭一己様	お米	中村友子様	事務用品
土屋裕子様	洗剤	鈴木浩二様	梨
樋口里子様	タオル、他	榊まゆみ様	洗剤
飯塚 忍様	キッチン用品、他	大竹智子様	文房具
ひよこ教室様	マスク用消臭スプレー	与良啓子様	雑貨
アンジー様	マット、クッション他	木澤洋子様	布ボール
竹内朋子様	ガラス製品、他	渡 梅子様	衣類、雑貨
吉田五百子様	衣類		
渡 いく子様	雑貨		
ハートプラスの会中村靖則様 文具(紙類)、ゲーム			
花王(株)コーポレーション コミュニケーション部門様 シャンプー他			
花王ロジスティクス様 ハンドソープ、他			
花王(株)社会貢献部様 紙おむつ			

共有のバリアフリートイレ完成

「公益信託オラクル有志の会ボランティア基金」様よりの
助成金で改修できました。

感謝いたします。

2011年10月



会費(ご寄付)納入のお願い

いつも「ぶどうのいえ」の活動をお支えいただき有難うございます。
ぶどうのいえは、皆さまからのご寄付と滞在費収入により運営されています。
2,000円を超えるご寄付には免税措置が適用されます。
来年度に向けて、振替用紙を同封させていただきます。
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

2011年はいろいろな事が起きた年でした。一年間の温かいご支援に心より感謝申し上げます。
新しい年が皆様にとって良い年になりますように。 編集担当：金井、堀内、西田

認定 NPO 法人 ぶどうのいえ

ホームページ <http://www.budounoie.jp/>
E-mail info@budounoie.jp
郵便振替口座名 特定非営利活動法人ぶどうのいえ
郵便振替口座番号 00120-2-540161